



林業福島

No. **662**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 齋藤卓夫



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

10 2019

監 修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 紅 葉



林災防福島県支部からの お知らせ

林業・木材製造業労働災害防止協会

福島県支部長 平 子 作 麿

林業・木材製造業労働災害防止協会福島県支部の運営につきましては、日頃よりご支援、ご協力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。日頃よりご支援、ご協力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

「伐木等の業務に係る特別教育」につきましては、休止しておりましたが、六月末に講習会実施に関する安全対策体制が整い、九月から再開しております。この間、会員の方々をはじめ受講を希望されておられた皆様に多大なご迷惑をかけたことを改めてお詫び申し上げます。

さて、県内における平成三〇年の林業労働災害は、林業が三八件で十三件の増、木材製造業は三五件で五件の増といずれも前年を大きく上回っております。現在は、前年比で事故件数が下回っており、残り三ヶ月「安全作業に徹する心構え」をお願いするとともに、毎年実施しておりますリスクアセスメント集団指導会に参加して安全対策の取り組みを学んでいただきたいと思っております。

また、今月開催される福島県林業祭において、チェーンソーの技能向上を目指した「第十回福島県チェーンソー選手権大会」を当支部主催で開催します。七月二三日の朝刊にチェーンソー技術を競うハスクバーナ杯「チャレンジMクラス」で相馬地方森林組合職員が一〇五位を独占した記事が掲載され、毎年実施してきた成果の現れと喜んでおります。今年も多くの方がエントリーされ福島県林業研究センター広場に職場・家族の応援が響くことを期待しております。

最後に、今年二月に法律の一部改正があり、「伐木等の業務に係る特別教育の補講」講習が必要となりました。当支部では、計画的な特別教育の補講講習開催を予定しています。詳細は、当支部のホームページ (<http://www.fmokuren.jp/>) に掲載しておりますのでアクセスして申し込みください。



「伐木等の業務に係る特別教育」補講での防護衣の装着の実技

《も く じ》

とびら

林災防福島県支部からのお知らせ

林業・木材製造業労働災害防止協会

福島県支部長 平 子 作 麿……………1

東京オリンピック・パラリンピック関連施設への「ふくしま県産材」の提供について……………2

林業研究センターだより……………3～4

令和2年度福島県予算編成に対する要望聴取会……………5

日本人の住まいと福島県建築大工業協会……………6

東北・北海道ブロック「令和元年度林業グループコンクール及び第59回林業グループ意見交換会」に参加して……………7

普及指導員通信……………8

森林管理署メモ……………9

木連だより……………10

木の文化を育む⑦……………11

木材市況・ふくしま東西南北……………12

はなしのひろば・お知らせコーナー……………13

東京オリンピック・パラリンピック関連施設への「ふくしま県産材」の提供について

..... 福島県林業振興課

県では、開幕まで1年を切った東京オリンピック・パラリンピック競技大会を支援するとともに、日本を訪れる海外の方々に対して、復興支援への感謝と「おもてなし」の気持ちを発信するため、大会関連施設に県産木材を提供する2つの取組みを進めています。

1つ目の取組みは、「日本の木材活用リレー～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～」です。

これは、全国から応募のあった自治体の木材を使用して、選手村ビレッジプラザを建築し、大会終了後は解体し、使用した木材をレガシーとして各地で活用するプロジェクトで、本県を含めて、全国63自治体が参画しています。

ビレッジプラザは、大会期間中に選手が滞在する選手村内の施設で、選手団の歓迎式典が開かれる他、店舗、カフェ、メディアセンター等が入居する延べ床面積約6,000㎡、A～Eの各棟からなる施設です。

提供する材については、持続可能性に配慮した木材の調達コードを満たす必要があるため、いわき市の認証森林や、白河市の国有林等で伐採した材を、県内の製材工場で製材、乾燥した後、プレカット、塗装工程を経て、最後に「福島県」の刻印を施して出荷しています。ビレッジプラザ建築工事の進捗に併せて、今年5月末から10月上旬にかけて、7回にわたって、県産のスギ、ヒノキ材約113㎡（部材数にして約3,000）の構造材や造作材、外構部材を現場に搬入しています。

2つ目の取組みは、「木製ベンチの提供」です。

県産スギ材で製作したベンチ250基を、都内のオリンピック・パラリンピック関連施設に設置するものです。ベンチのデザインは、昨年開催された全国植樹祭で活用した3人掛けのものを想定していますが、使用環境に応じた仕様の変更を検討しています。

また、ベンチの製作にあたっては、子ども達が木材に触れる機会を創出し、豊かな自然や、ものづくりに対する意識の醸成を図るため、県内の小中学校の児童、生徒が製作に携わることとしています。さらに、その様子を動画等で記録し、ベンチの利用者が視聴できるような仕組みを検討しています。ベンチについても大会終了後は、各学校に返却してレガシーとして活用してもらう計画です。

これらの取組みを通して、国内外に対する「ふくしま県産材」の普及、PRが図られることが期待されます。



ビレッジプラザへの搬入部材には1本1本に刻印が押されます

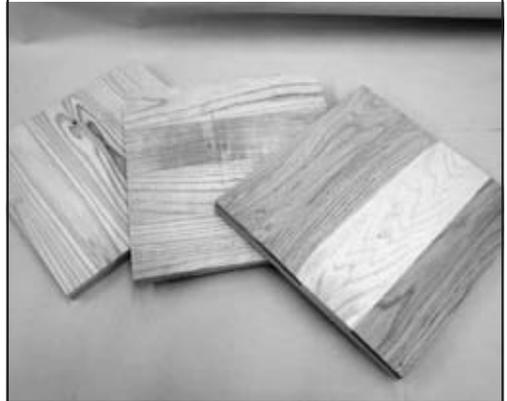


ビレッジプラザの建築現場に向け出荷です

林業研究センターだより

県産間伐材の 利用技術の開発

～スギ、キリ、コナラを使ったクロスパネルの作製～



スギ、キリ、コナラのクロスパネル

福島県林業研究センター

林産資源部 阿部 由紀子

○はじめに

ふくしま森林再生事業等の実施により生産されるスギ間伐材には、柱や梁としての利用が難しい低質材も含まれています。しかし、欠点を除きひき板（ラミナ）を製材する集材材用原木には、低質材を利用することが可能です。ただし、県内で製造されているスギを使った構造用集成材には、材のたわみにくさを示す指標である曲げヤング係数により選別された比較的曲げヤング係数が高いラミナ（L70以上）が主に使用されています。そのため、曲げヤング係数が低い（L70未満）ラミナは、間柱などの利用に用途が限られており、新たな用途の開発が望まれています。

一方、フローリングを製造している業者からは、これまであまり利用していない幅の狭い板材を幅はぎし、積層接着することで、ブロック状のフローリングとして利用できないかとの要望があります。幅はぎ板は繊維方向を直交するように積層したクロスパネルとすることで寸法安定性が高まると考えられます。そこで、L70未満のスギの幅はぎ板を下層に使用し、用途に合わせて表面の硬さを選ぶことができるようスギ、キリ、コナラの幅はぎ板を上層に使用したクロスパネルを作製することとし、まずは接着性能の試験を実施しましたので、試験方法及び結果を報告します。

また、現在取り組んでいるクロスパネルの作製についてあわせて紹介します。

○スギ、キリ、コナラの接着 性能の試験及び結果

・試験方法

クロスパネル作製のため、異樹種間の接着や積層構成が異なる場合の接着性能について、小試験体で試験を実施しました。

コナラスギ（L70未満）、スギ（L70以上）—スギ（L70未満）、キリスギ（L70未満）の二層の接着を行い、積層構成は繊維方向を平行に積層した接着（以下平行接着）と繊維方向を直交に積層した接着（以下直交接着）としました。

接着条件は水性高分子イソシアネート系接着剤を使用し、片面塗



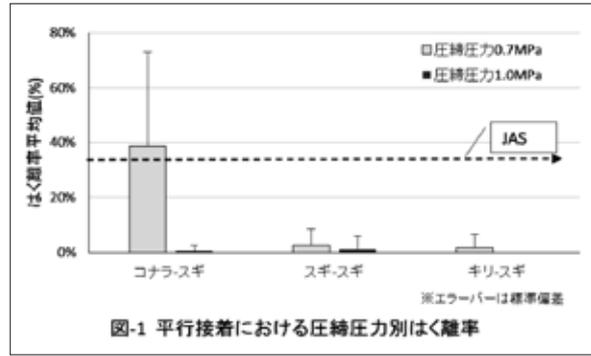
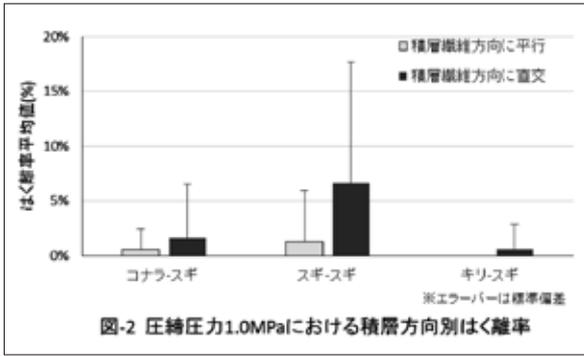
コナラスギ（L70未満）の接着

布、塗布量約二五〇g/平方メートル、圧縮時間六〇分としました。圧縮圧力は平行接着で〇・七MPaと一・〇MPaの二通りとし、平行接着より接着の難しい直交接着では一・〇MPaとし、圧縮は集成材用のプレス機を用いました。浸漬はく離試験はフローリングの日本農林規格（JAS）に準じ、各試験片から一辺が七五mmの正方形の試験片を一片採取し、七〇℃の温水中に二時間浸漬した後、六〇℃の恒温乾燥器で三時間乾燥し、はく離率を測定しました。

・結果

浸漬はく離試験での平行接着における圧縮圧力別はく離率では、スギ（L70以上）—スギ（L70未満）、キリスギ（L70未満）は、圧縮圧力〇・七MPa及び一・〇MPaとも、全ての試験片でJASの基準（はく離率三割以下）を満たし十分な接着がされていました。コナラスギ（L70未満）では、圧縮圧力〇・七MPaの場合にJASの基準を満たすことができない試験片があり、圧縮圧力一・〇MPaの場合には全ての試験片でJASの基準を満たしていました（図1）。圧縮圧力一・〇MPaにおける積層方向別のはく離率では、三つの組み合わせで平行接着に比べ直交接着ではく離率の増加する傾向が見られ

ましたが、JASの基準を満たして
 いました(図-2)。



幅はぎ接着 (幅はぎ用プレス機)



ラミナの加工 (プレーナー)



幅はぎ板の積層接着 (接着剤の塗布)



幅はぎ板の加工 (プレーナー)



幅はぎ板の積層接着後の養生



幅はぎ板の積層接着 (プレス機による圧締)

○クロスパネルの作製
 上記の試験で確認できた接着条件を基に、現在二層クロスパネル(スギースギ、キリースギ、コナラースギの組み合わせ)と三層クロスパネル(スギースギースギ、キリースギースギ、コナラースギースギの組み合わせ)の作製に取り組んでいますので、その作製手順を紹介いたします。

- ・作製手順
- ①ラミナの加工
 ラミナにプレーナーをかけ、厚さや幅を一定に加工します。
- ②幅はぎ接着
 ラミナの側面に接着剤を塗布し、幅はぎ用プレス機を用い、幅方向に幅はぎ接着をします。
- ③幅はぎ板の加工
 幅はぎ板にプレーナーをかけ、積

○おわりに
 現在取り組んでいるクロスパネルの作製及びその後実施する試験の結果を踏まえ、スギ、キリ、コナラを使ったクロスパネルの作製条件や性能を明らかとし、新たな用途として利用が進むよう研究を実施する予定です。
 また、今回の研究を進めるにあたり、県内の製材所から情報提供をいただくとともに、クロスパネル作製のためプレス機を貸していただくなどご協力をいただいておりますことをこの場を借りて感謝申し上げます。

- ④幅はぎ板の積層接着
 幅はぎ板に接着剤を塗布し、繊維方向を直交するように積層した上でプレス機を用い、接着します。
 - ⑤仕上げ加工
 養生後、積層接着したパネルの表面及び寸法をプレーナー等で加工します。
- 今後、作製したクロスパネルについては、接着性能及び寸法安定性の評価を行う予定です。また、福島県林業祭の会場に作製したクロスパネルを展示し、皆様からご意見をいただきたいと考えています。



自由民主党福島県議会議員会

福島県林業会議は、森林の有する多面的機能の発揮と林業の持続的かつ健全な発展に寄与することを目的に設立し、林業関係十団体で構成しています。

令和二年度 福島県予算編成に対する要望聴取会

福島県林業会議

県議会各会派からは「要望事項はしっかりと受け止めた。実現できるような努力する。」との力強い回答をいただきました。

九月三日、令和二年度福島県予算編成に対する県議会各会派による要望聴取会が開催され、当会議では森林・林業の再生なくして福島県の東日本大震災からの復興はないとの強い思いから、更に復興の加速化を図り、森林を将来の世代に健全な姿で引き継いでいけるよう、表に掲げる十項目を要望しました。

九月三日、令和二年度福島県予算編成に対する県議会各会派による要望聴取会が開催され、当会議では森林・林業の再生なくして福島県の東日本大震災からの復興はないとの強い思いから、更に復興の加速化を図り、森林を将来の世代に健全な姿で引き継いでいけるよう、表に掲げる十項目を要望しました。

【令和2年度福島県予算編成に対する要望事項】

1 復興・創生期間終了後の森林林業の再生への取組の継続	<ul style="list-style-type: none"> ・ふくしま森林再生事業の継続、放射性物質動態調査の継続 ・きのこ生産資材の調達支援、広葉樹林再生事業などの継続 ・林業・木材産業の長期ビジョン策定 	など
2 森林資源の循環利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な主伐・再造林促進の支援制度拡充、林道・森林作業道の整備 ・公共建築物の木造・木質化、公共土木事業における県産材利用推進 ・商業施設の木造・木質化への助成 	など
3 森林経営管理制度における市町村等への支援強化	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村支援の仕組み構築 ・市町村、林業経営体のIT技術活用に向けた支援 	など
4 林業人材育成制度の早期整備等	<ul style="list-style-type: none"> ・林業大学校等の早期設置 ・林業のPRや相談窓口の強化、現場研修の充実 	など
5 福島森林環境基金制度の継続	<ul style="list-style-type: none"> ・県民意向調査、県独自の視点による森林づくりの推進 	
6 森林づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ふくしま植樹祭の開催支援 ・「緑の教室」の開催に向けた施策構築 	など
7 避難指示区域等の森林管理の具体的取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・里山再生モデル事業の成果取りまとめと里山再生のための事業構築 ・環境放射線モニタリング、実証実験の継続実施 	など
8 森林の適正な整備に向けた支援	<ul style="list-style-type: none"> ・苗木生産者への支援、森林整備の事業量の情報提供と早期発注 ・降雪地域の事業確保、造林補助制度の弾力的運用 	など
9 きのこ等特用林産物の生産振興	<ul style="list-style-type: none"> ・生産資材の放射性物質検査の実施、農産物安全認証制度の取得支援 ・県オリジナル品種の産地化推進 	など
10 治山施設等の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・山地災害危険地区に対する効果的な防災・減災対策の推進 ・小規模な山地災害等箇所での早急な復旧の推進 	など



福島県議会県民連合議員会



日本共産党福島県議会議員団



公明党福島県議会議員団

日本人の住まいと

福島県建築大工業協会

一般社団法人福島県建築大工業協会

「在来軸組み工法」と言う言葉、皆さんはご存知ですか。これは日本の伝統的な住まいづくりにごだわる建築大工職人と工務店経営者の皆さんが集まって、後世に残そうとしていた木造住宅の建築工法です。

覚えていますか、阪神淡路大震災。この大震災を契機に住宅の耐震性が問題視されるようになりました。テレビ等メディアを通じて見せられる映像は、倒壊した木造住宅の無残な姿です。プレハブの建物の方が地震に対して頑丈であると言う、コメンテーターも出る有りさまでした。そんなことはないと言う大工職人さんたちの声、このままでは在来軸組み工法は絶滅してしまふ。そんな危機感から在来軸組み工法を後世に残そうと結成されたのが、「福島県建築大工業協会」です。

本来に木造建築物は地震に対して弱いのか。日本大学工学部の先生の指導の下、実寸大の模型を製作し

て、大学で耐震実験を行ったりもしました。木は軽くて大変丈夫です。同じ重さの鉄と木の強さを比べると、圧縮強度は鉄の約二倍、引っ張り強度は約四倍にも達します。このように軽くて強いと言うことは、構造物材料として大変適していると言うことでもあり、強度的には鉄筋と同等、或いはそれ以上の建築物を造ることが可能です。

しかし、木の持つている特性や利点を知らない、本来に良い木造住宅は造れません。ゆえに、森林林業に携わっている方々とは常に互い情報交換が必要となります。

また記憶にも



新しく、大きな被害が出た東日本大震災では、阪神・淡路大震災や新潟県中越地震での大工職人としての応援遠征の経験が生かされ、協会として仮設住宅建設に携わり、それ相應の評価を頂きました。しかし、近年この職人文化の継承に暗雲が漂い始めています。それは職業として大工職人への道を選択する若者が激減しているからです。将来我が国の伝統技術・伝統文化が色あせていくことが懸念されます。

先日、高校生を対象として、学校の授業形式で協会会員指導のもと、小さな木造の小屋を生徒の皆さんに手刻みで加工して頂きました。木材を鋸(のこ)でひいたり、鑿(のみ)

で穴を開けたり、皆さんかなり悪戦苦闘しましたが、見事三時間ほどで完成させて、建物を前に笑顔で記念写真におさまりました。実際に木に触れて、汗を流して作業することで興味につながり、この生徒さんが明日の担い手になってくれることに、心のどこかで期待してしまいます。

当協会は、これからも大切な伝統技術・伝統文化を後世に残すために、「木の家」「百年住宅」「匠の技」を協会の合言葉とし、「安価」で「快適」で「安心」して暮らせる住まいを、より多くの国民の皆さんにお届けするために、協会会員が一丸となって、日々事業活動を展開して参ります。



福島県からの発表（会津キリ振興連絡協議会）

東北・北海道ブロック 「令和元年度林業グループコンクール及び 第五九回林業グループ意見交換会」に参加して

会津農林事務所森林林業部 主査 山田 誠

八月二六日から二七日まで秋田県で行われた、東北・北海道ブロック「令和元年度林業グループコンクール」及び第五九回林業グループ意見交

換会」に、県林研グループ連絡協議会の豊田会長や会津キリ振興連絡協議会の発表者など、福島県からは七名が参加しました。

コンクールの開会での来賓の挨拶等では、国の政策である森林環境譲与税の話題が多く盛り込まれ、森林整備の推進や林研グループ活動の発展について期待の言葉が述べられました。

発表は、福島県、青森県、秋田県、山形県、宮城県、北海道、岩手県の順で行われ、発表を重ねる毎に会場は和やかな雰囲気となっていきました。

会津キリ振興連絡協議会による「日本一の会津桐の再興を目指して」と題した発表では、平均気温の変化による害虫被害発生増加温度の分析等、科学的な根拠に基づく桐栽培等の注意点や協議会の普及の取組等が

紹介され、「会津桐」という日本を代表する銘木産地における栽培技術に、参加者は真剣に耳を傾けていました。

地元、秋田県からは、林研グループに秋田県立大学工学部（建築学科）の学生が参加し、木材特性等を学んだり、ツリーハウス建築を行う事例等が発表されました。活動に携わった学生のほとんどが、卒業後、建築士となり建築分野で活躍していることから、林研グループ会員から材料を購入したり、秋田県産材を活用した建物がコンクールで受賞する等、地元産材活用においても成果を上げており参考となる事例と思われました。

審査の結果、全国大会への切符は、宮城県が、次席は山形県となりました。宮城県からは、ミツバチを利用した環境評価や森林整備活動等についての報告があり、勢いのあるWe Love Forestの発声やかぶり物を用いる等、賑やかな発表となりました。一方、山形県は、林研グループが行う地元高校生を対象とした後継者育成という内容の発表でした。審査では、発表内容が「本来の林研グループ活動であるか」という点に着目されており、発表後の質疑においても、活動実態を確認する質問



次期開催県のあいさつ（福島県林研グループ連絡協議会豊田会長）

が多く審査員から寄せられています。一方、審査員がイメージする林研グループ活動が、現状にマッチした未来を見据えた活動であるか、審査後に意見を交わす参加者も見られました。

その後の意見交換会も、終始和やかな雰囲気が進み、会の最後に来年度の開催地となる本県の豊田会長から「来年、福島で皆さんをおもてなしてできるよう準備を進めています。是非、福島に来てください！」とメッセージが送られると、「みんなで行きます。楽しみにしています。」と、沢山の笑顔で会場から答えが返ってきました。

南会津地域における林業の 成長産業化に向けて

福島県南会津農林事務所

林業普及指導員 小檜山 敦

1. はじめに

南会津地域は3町1村からなっており、総面積23万4千haのうち、森林面積は21万8千haと約93%を占めています。この地域では、優良広葉樹材の生産地として、昭和30年代には年間32万 m^3 の素材が生産され、東北地方の広葉樹材の集出荷基地として、広葉樹大径材の製材・加工を始め、用材、家具、フローリング等の木材加工業が発達し、広葉樹や木材・木工の町として林産業を基幹産業として栄えていました。

しかし、約30年前より優良広葉樹資源の減少と、その後の生態系保護地域の指定、安価な外国材の流入によって、当地域全体の素材供給量は著しく減少しました。

こうした背景のなか、南会津町は、森林管理のICT化、生産性向上による素材の供給拡大、山元への利益還元やバリューチェーンの確立を図るため、平成29年度から「南会津地域」として「林業成長産業化地域創出モデル事業」に取り組んでいます。

南会津農林事務所では、この取組に対し支援を行っていますので、その一部を紹介します。

2. 取組内容

林業成長産業化地域創出モデル事業は、平成28年度から関係者がソフト・ハード事業の計画策定を開始し、平成29年には、素材生産者、製材・加工事業者、木材需要者、森林育成事業者、川上・川下の各種団体及び大学、関係機関等約60名の参加のもと林業成長産業化推進会議が立ち上げられ、当事務所もオブザーバーとして助言等を行い、効率的な事業の推進と地域活動の活性化に関わっています。

さらに、「川上」・「川下」・「新しい活用」の3つのワーキンググループ、各専門分野関係者が意見を出しあい協議する12の分科会が立ち上げられました。

平成30年度は、月に2回程度分科会等が開催され、当事務所も事業実施に関する助言等を行うことで活発な意見交換が行われました。

その結果、森林資源量把握のための航空測量データの解析（林相区分図の作成566 km^2 、地形解析600 km^2 等）、素材生産性向上のための森林組合の林業機械導入支援（グラップル付きバックホウ1台、グラップル付きフォワーダ1台、ウルトラザウルス1台）、地域材のブランド化を図るための町有林でのFM認証拡大（477ha→9,288ha）、町産材の利用拡大のための木造住宅等補助制度の創設・実施（12件：新築7件、増改築5件）など、各種事業が実施され、目標の達成に向けて取組が行われているところです。

また、本年度は新たに、町の住宅補助制度を活用し、森林認証材を使用した一般住宅での構造見学会を行政・民間合同で開催し、森林認証材の流通の標準化、町産材の地域需要拡大と利用の意識向上を図っています。

3. おわりに

南会津農林事務所としては、当モデル事業の実施にあたり、今後も、川上側と川下側を結ぶ調整役である町や関係団体等と連携しながら、林業成長産業化の具現化を図り、他町村、他地域の林業振興につながる波及・波紋効果を目指していきたいと思っております。



ウルトラザウルス（フェラパンチャ・ウィンチ付きバックホウ）による土場の作設状況



森林認証材を使用した一般住宅での構造見学会



森林管理署メモ

奥会津における 森林生態系保全の 取組



会津森林管理署南会津支署は、只見町、南会津町、檜枝岐村に所在する国有林約一万余を管轄しています。スギ、カラマツの人工林施業も行っていますが、管内の国有林の大部分が奥会津森林生態系保護地域や緑の回廊、尾瀬国立公園や越後三山只見国定公園などの自然公園や、只見ユネスコエコパークに指定されています。このような特色ある国有林における森林生態系保全の取組を紹介します。

1. 尾瀬大江湿原におけるニホンジカからの植生保護

尾瀬国立公園の東側（福島県と群馬県の県境付近）に位置し、広さ約三五〇にわたる大江湿原では、尾瀬を代表するニッコウキスゲやミズバショウなど様々な高山植物が四季折々の姿を見せ観光客の目を惹きつけています。しかし、平成二〇年頃からニホンジカによるニッコウキスゲの花

芽の食害が年々拡大したため、地元関係者からも、重要な観光資源である尾瀬のニッコウキスゲの保全の要望が寄せられるようになりました。

このような状況を踏まえ、会津森林管理署南会津支署では、平成二六年度より大江湿原の周囲約三・六キロに金属製の防護柵の設置を行っています。防護柵は、栃木県などで越冬したニホンジカが春に尾瀬の雪が解けると戻ってくることで、また冬季は雪の圧力により金属製の防護柵が破損してしまうことから、雪が解ける六月頃に設置し、降雪前の十月頃に撤去しています。また、福島県、檜枝岐村、猟友会、尾瀬保護財団等の関係機関で構成される「南会津尾瀬ニホンジカ対策協議会」の活動として、平成二九年度から協議会メンバーや一般ボランティアの参画も得て、湿原周囲の防護柵の一部設置が行われています。

これらの取組により、防護柵設置期間中のシカの目撃頭数は防護柵導入前に比べ減少し、花芽の食害も減り、ニッコウキスゲの開花が徐々に回復しています。特に今年七月下旬に多くの開花が見られ、大勢の登山客の喜ぶ姿が見られました。

2. 只見町における民有林と連携したナラ枯れ対策

管内の只見町では、平成二二年頃からナラ枯れ被害が確認されるようになり、会津森林管理署南会津支署では、山形県森林研究センターの協力を得て、平成二六年度より、おとり丸太によるカシノナガキクイムシの誘引・燻蒸による防除を実施しています。

具体的な手法としては、ナラ枯れの原因であるカシノナガキクイムシを誘引するためのナラ類の丸太を集積し、その内部にフェロモン剤を設置し、誘引されたカシノ

ナガキクイムシを燻蒸処理により捕殺しています（六月中旬～九月中旬に実施）。

国有林に比べ、民有林での被害が多く見られていることから、平成三〇年度からは、只見町役場、南会津農林事務所とも連携し、設置場所の設定や結果の検証を合同で行っています。令和元年度には国有林内一箇所と民有林内三箇所計四箇所におとり丸太を設置し、カシノナガキクイムシの誘引が確認されています。

設置方法の検証や改善を経て、誘引数は年々向上し（令和元年度・七、〇〇〇～一九、〇〇〇個体／立方メートル）、ナラの枯死被害拡大を抑制する成果をあげていると評価されています。

会津森林管理署南会津支署では、貴重な奥会津の森林生態系保全のため、今後とも地域の関係者の皆様と協力して対策に取り組んでまいります。



シカ柵ボランティア作業



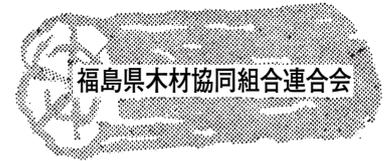
大江湿原ニッコウキスゲ開花



おとり丸太調査

木連だより

パークの安定した
利活用体制構築に
むけて



パークの発生量は、一年前までは月約八千トでしたが、現在は月一万ト程度と徐々に増加しています。滞留量は平成二五年の八千トをピークに現在では滞留は解消しています。が、原子力発電所事故に伴う放射性物質の影響により利活用は進まず、依然として発生量の六〇七割は、東京電力の賠償を基に産業廃棄物として処理されています。

一方で、事故から八年以上が経過しパークの放射性物質濃度は下がりがつつあることから、福島県木材協同組合連合会としては、事故により利活用が制限されている県産パークを、震災前同様全量利活用される状況に戻すため、各種用途による安全性を検証し、安定した利活用体制構築に取り組んでおります。

今年度は、徐々に利活用が回復してきている堆肥用や敷料用については、現状をさらに増大させるための実証を行い、燃料用については、現

在はほとんど利用されていないことから、利活用を始めるためのデータの収集と安全性をPRするための手法等の検討や新たな利用方法についても検討しております。

〈燃料用としての利活用〉

(1) 発電施設等における木質系燃料の使用事例調査等

○調査内容

施設の運営者及び市町村に対して次の事項を調査する。

- ・各施設における木質系燃料の種類等
- ・燃焼するに当たり地域住民等の説明内容・手法などについて
- ・その他

(2) 検討委員会の開催

○検討内容

- ・燃焼データの分析やパーク燃焼に係る市民への安全性説明手法等の検討

〈燃料用以外の利活用〉

(1) 検討委員会の開催

○検討内容

- ・各種材料の特徴・性能等の検証
- ・需要者のニーズをとりまとめ、需要を拡大するための方策等の検討

(2) 果樹栽培敷料としての利用

浅根性のブルーベリー根の乾燥を防止するなどの目的で、土壌表面にパークを敷き詰め土壌の汚染や果実への放射能の移行を調査し安全性を実証する。

○測定検証項目

- ・土壌及びパークの放射性物質濃度の推移
- ・果実の放射性物質濃度
- ・施用パークのコスト低減に向けた検討

(3) 畜産敷料としての利用

肥育牛を対象にパークを敷料として利用し、牛への影響を観察するとともに堆肥としての性能や放射性物質

濃度の変化、さらには堆肥を利用した作物への放射能の移行を調査する。

○測定検証項目

- ・敷料パークの放射性物質濃度と水分率
- ・堆肥の放射性物質濃度と水分率の測定及び養分分析
- ・堆肥施用作物及び土壌の放射性物質濃度
- ・安価なパークの提供に向けた検討
- ・畜舎の構造等の違いによる堆肥の性能検討

(4) 防草資材としての利用

パークと石灰等を混合した資材を太陽光発電パネル下防草資材として施工しその効果等について検証する。

○測定検証項目

- ・パーク及び防草資材の放射性物質濃度
- ・施工地の空間線量率の経過
- ・防草資材としての性能
- ・施工コストの分析と他資材との比較



ブルーベリー園の乾燥防止



畜産敷料利用と堆肥化



太陽光発電パネル下防草資材

木の文化を育む⑦

ママのたのびのくんに La Vida's craft (有限会社 La Vida)

郡山女子大学 人間生活学科 建築デザインコース 准教授 阿部 恵利子



○はじめに

木の文化を育むシリーズ九月号で紹介した「有限会社ラビィダ」(福島・郡山市)では、二〇一九年春より、ママのためのクラフト部mam's craft(ママクラ)を立ち上げ、木の端材を活用して暮らしに役立つ道具づくりをしています。森から木の命をいただき、住宅や家具をつくり続ける日々の中で「製作中に出た木の端材(end piece)を活用することで、木の命を使い切りたい」という想いから、La Vida End Piece Project(LEPP)を発足したことが、ママクラ立ち上げの原点になりました。九月号でお話をうかがった、ラビィダの渡部友紀さんを中心に、かわらまち木工舎の中山由紀子さんやラビィダで大工を務める野尻雄一郎さんがママクラ講師として制作指導をしています。

○暮らしを創造する

ラビィダの使命「木工をもっと暮らしに」をコンセプトに、ママクラ

は月に一度のペースで活動しています。忙しいママや子ども達が「木工」に触れる機会をつくるとともに、木の端材を暮らしに役立つ道具に変えてゆく楽しさを共有します。ママクラでつくる暮らしの道具は、お皿や

へら、カッティングボード、踏み台のほか、木製楽器のカスタネットなど様々です。いずれもママたちの発想で、栗・山桜・ナラなどの端材が生活道具に姿を変え、愛着のあるモノに生まれ変わります。

○「木工」と触れ合う

暮らしの道具をつくるママの傍で、子どもたちも一緒に木工を体験します。自由な発想で個性溢れるモノづくりとともに、木の香りやあたたかさを体感する良い機会となっています。カッティングボードづくりでは、工具を使って木を切り取ったり、穴を開けたり、サンディングの

機械を使うなど、時には大人の手を借りながら、子ども達も真剣にモノづくりに向き合います。カッティングボードを自分でつくる体験を通して、子ども達には、つくったモノを実際に使ってみたい、という気持ち芽生え、「お家でお料理するんだあ」と新たな意欲につながる契機にもなっているそうです。

ママクラでは、ママと子どもが一緒に楽しめるよう、子どもの年齢に合わせた木工を準備しています。

○五感で楽しむ

ママクラの要望でつくった木製楽器のカスタネットは、木の端材が様々な形に姿を変え、世界に一つだけのオリジナルカスタネットになりました。思いどおりにかたどったカスタネットを使い、リズム遊びをしたママクラ親子は、五感で木の心地よさ

を感じながら目・心・体で通じ合う楽しみ方、ノンバーバル・コミュニケーション(非言語的)をとおして、新たな学びと楽しさを全身で体感できるひとときとなりました。

○まとめ

「森から木の命をいただき、木の命を使い切る」そこから生まれるモノ・コトは、私たちの暮らしをより豊かに、そして多くの学びを得る契機となっています。森の恵みを上手に活かし、豊かな暮らしを創造してみたいかがでしょうか。

ママクラの暮らしに役立つ道具づくりは、九・十月のサービングスプーンづくり終了後、十二月はクリスマスに合わせ、新たに木製楽器をつくる予定となっています。毎回、木工技術上達のためのワークを段階ごとに数種準備しております。



ママクラ成果品と活動の様子



素材の価格 〈工場着価格〉 (2019年7月15日現在)

(単位: m当たり千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	10 (10~10)	0	(0~0)		10 (10~10)	0	10 (10~10)	0
		10~14		並	スギ	12 (11~13)	△1	(0~0)		12 (11~12)	△1	12 (11~13)	△1
	中	14~22	3.00	並	スギ	12 (11~13)	0	11 (11~11)	△3	12 (11~12)	△1	12 (11~13)	0
				並	ヒノキ	19 (16~22)	0	18 (18~18)		15 (14~16)	0	17 (14~22)	0
		6.00	並	スギ	16 (15~17)	0	13 (10~15)	3	17 (16~17)	0	15 (10~17)	0	
			並	ヒノキ	30 (25~35)	0	(0~0)		22 (18~25)	0	26 (18~35)	0	
			並	スギ	11 (10~12)	0	11 (10~13)	0	12 (10~13)	0	11 (10~13)	△1	
			並	スギ	11 (10~13)	0	11 (11~11)	0	11 (10~12)	0	11 (10~13)	0	
	20~28	3.65	並	スギ	11 (10~12)	0	11 (10~13)	0	12 (10~13)	0	11 (10~13)	△1	
		4.00	並	スギ	11 (10~13)	0	11 (11~11)	0	11 (10~12)	0	11 (10~13)	0	
			並	アカマツ	9 (7~12)	0	(0~0)		10 (9~10)	0	9 (7~12)	△1	
		1.80	並	アカマツ	8 (5~11)	0	(0~0)		9 (9~9)	0	8 (5~11)	0	
外材	30以上	10.00	並	米ツガ	(0~0)		(0~0)		30 (30~30)	0	30 (30~30)	0	
			並	米マツ	(0~0)		39 (39~39)	7	28 (28~28)	0	34 (28~39)	4	
	28以下	3.80	並	エゾマツ	(0~0)		(0~0)		25 (25~25)	0	25 (25~25)	0	
			並	アカマツ	(0~0)		(0~0)		25 (25~25)	0	25 (25~25)	0	
パルプ用材			並	マツ	7 (7~7)	0	(0~0)		7 (7~7)	0	7 (7~7)	0	
			並	広葉樹	10 (10~10)	0	(0~0)		(0~0)		10 (10~10)	0	

六月の原木市場への入荷量は、前月比二割減(前年比二割増)の二五、一一五立方メートルとなっている。
 販売量は、前月比変わらず(前年比二割増)の二五、四九八立方メートルとなっている。
 七月の価格は弱含みとなっている。

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(0~0)		7 (6~9)	0
	13~14		並	カラマツ	12 (11~12)		8 (7~8)	0
	16以上		並	カラマツ	14 (13~15)	0	9 (9~10)	1

- 注) 1. 前月差の△印は値下りを示す。
 2. () 内は各地域の価格幅、() 外は各地域の平均価格を示す。
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
 4. 各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

さて、御霊櫃峠のお話に戻りますが、峠の名称の由来は平安時代後期にあった「前九年の役」という源氏・藤原氏と安倍氏が争った長い戦いがあり、その際、源義家の家臣であった鎌倉権五郎景政がこの地の山中にある霊石に戦勝

御霊櫃峠は郡山市逢瀬町から同市の湖南町の境となる場所にある標高八七六メートルほどの峠で、峠内には延長一、〇〇〇メートル(阿武隈川地域森林計画書より)の林道ぐれいびつ線が經由しており、峠の頂上からは猪苗代湖を望むことができます。
 余談になりますが、湖南町は猪苗代湖の東から南辺りに位置しておりますが、恥ずかしながら、私は生まれも育ちも福島県でありながら、事務所に配属されるまで猪苗代湖周辺は全て猪苗代町と勘違いしておりました。もし、湖南町の方がいらつしやれば、大変失礼いたしました。

今回、初めて東西南北を執筆するにあたり、県中地区内で時折私が訪れている御霊櫃峠について紹介したいと思います。
 御霊櫃峠は郡山市逢瀬町から同市の湖南町の境となる場所にある標高八七六メートルほどの峠で、峠内には延長一、〇〇〇メートル(阿武隈川地域森林計画書より)の林道ぐれいびつ線が經由しており、峠の頂上からは猪苗代湖を望むことができます。

と五穀豊穰を祈願したそうなのですが、この霊石が人々より御霊櫃と呼ばれたことからこうした名称になったと伝えられているそうです。



御霊櫃峠

県中農林事務所 芳賀亮汰



頂上からの景色



額取山登山コースの入り口

御霊櫃峠は山つつじの名所であり、額取山への登山コース入り口でもあることから、足を運ぶ方がぼつぼつと見られます。また、ロードバイク等にて峠を登る方も見られる場所、私もロードバイクで時折この峠を登っていきまして、平均勾配が五割程度で私のような貧脚でも登れる緩やかな峠です。
 峠の頂上から見える猪苗代湖はとても綺麗ですので、もし近くを通ることがあれば、是非足を運んでみてはいかがでしょうか。

表紙の写真



「紅葉」

第33回ふくしま緑の写真コンクール
入選
受賞者 大島市郎さん(会津若松市)
撮影場所: 南会津郡下郷町(観音沼)

発行人
発行

水戸 陽光社印刷株式会社
(定価 一〇八円)

編集

福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
(福島市中町五番一八号県林業会館内)

はなしの ひろば

夕焼け

秋の夕焼けに、心が瞬間ギュッとつかまれたことはないだろうか。夕刻、薄暗くなりかけてくると、まち全体が夕焼け色に染まり、短い時間ながら特別な情景となる。十月の空の雲がほんのりピンク色に染まり、時間とともに変化する空の色は、叙情的な雰囲気になる。が、二日と同じ光景はなく、今日は今日の夕焼けである。

しかし、私は、この季節の夕焼けをきれいだと思っただけのもの、夕焼けに特別な思いを抱いていたわけでもなく、感慨深気に眺めたこともなかったのだが、新聞に投稿された東京都の婦人の話を読んでから、今日の夕焼けを心に留めておくようになった。婦人の話は、こうである。

「公園のベンチから秋の夕焼けがきれいに見えて、思わず隣に座っていた女の子に夕焼けきれいね、と声をかけたら、女の子は全盲だった。あつ、ごめんねと言うとその子は、夕焼けのピンク色は目をつむってみると、とても温かく感じる色なんだよ、と先生が教えてくれたの。だから私にもみえるよ。きれいだね」と。

そんな風にこの夕焼けをみている子が、そんな風にこの夕焼けを覚えてくれた先生がいるのだと思ったら、今日の夕焼けは見逃せないと思うようになった。温かい色、温かい心。秋の夕焼けは、目と心で感じるもの。深まりいく秋の序章になる、とびつきりいい話である。(都)

お知らせコーナー

第44回福島県林業祭を開催します

福島県林業祭を次のとおり開催します。
森林・林業・木材産業の魅力等を感じていただける楽しいプログラムとなっていますので、多くの県民の皆さまのご来場をお待ちしております。

1 日時

令和元年10月19日(土) 9:30~15:30

※※今年度は1日のみの開催となりますのでご注意ください!!※※

2 場所

福島県林業研究センター(郡山市安積町成田字西島坂1番地)

3 主なプログラム

(1) 体験型プログラム

森のオークション、ツリークライミング、木工体験、箸づくり、漆の草木染め、木のおもちゃ、林業クイズ選手権 など

(2) 見学型プログラム

森のコンサート、模擬上棟式と餅まき、チェーンソーアートショー、チェーンソー選手権 など

(3) プース型プログラム

林政に関する展示・PR、木製品や農産物などの農林水産加工品の展示・販売、林業機械の展示・販売、飲食ブース など

4 併催行事

(1) 福島県きのこまつり(きのこ品評会出品物の展示・販売、きのこ料理試食会)

(2) 森林の仕事ミニガイダンス

5 その他

日本全業工業株式会社様の臨時駐車場と会場間でシャトルバスを運行します

6 問い合わせ先 福島県林業振興課 (TEL 024-521-7426)



平成30年度チェーンソー選手権の様子

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



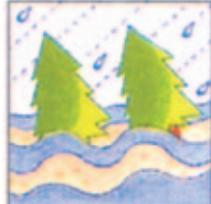
1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



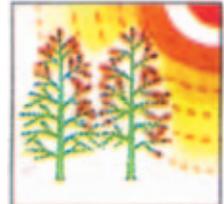
3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



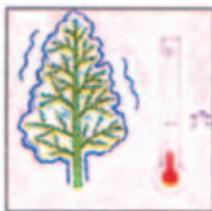
4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)

または最寄りの森林組合

イワフジの GP シリーズ

GP-35B グラップルプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.



傾斜地に対応した全旋回チルトプロセッサ

- ・最大 38 度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
- ・全旋回ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
- ・サイドカッター解除機能により曲がり材に対応
- ・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材

最新の GP-8 コントローラを搭載

- ・5.7 インチカラー液晶ディスプレイによる多彩な情報表示
- ・感圧式タッチパネル採用により操作性が向上
- ・A,B,C,D の 4 コード毎に 4 種類、合計 16 種類の測長設定値
- ・樹種を 4 種類登録でき、個別に測長調整値の設定が可能
- ・材積集計機能を標準で搭載



新開発のスタッドローラ (オプション)

- ・鉄輪の全周に装着された無数のスタッド(釘)が材を強力に捉え、送りモータのトルクを伝えます。
- ・特殊形状のスタッドを一体化したシンプルな構造で、メンテナンスが容易



For the future with forest

イワフジ工業株式会社

<http://www.iwafuji.co.jp/>

(北関東支店) 福島県郡山市八山田 5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168
(本社・工場) 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西 5-1
(支 店) 札幌・東北・北関東・関東・中部・関西・九州

レインボー薬品の薬剤と資材

緑地管理の未来をひらく

わたしたちは、人と自然の調和を考えながら、より良い緑の環境づくりを目指しています

松くい虫予防薬剤

ヤシマスミパイン乳剤
スミパインMC
マツグリーン液剤2
グリーンガード・NEO

くん蒸剤

ヤシマンCS

くん蒸用生分解性シート

くん蒸与作シート

ハチ退治

ハチノックL(巣処理用スプレー)

ハチノックS(携帯用スプレー)



レインボー薬品株式会社

東京都台東区上野1-19-10
お問い合わせ TEL. 03(6740)7777
平日 9:00~17:00 (土・日・祝日は休み)



人と共に 緑と共に

For Professional



BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

ZHM1550RR



刈幅：1500mm 出力：27.5kW

SR3100



破砕径：200mm 出力：18.4kW

For Professional



GZ3950EZ
排気量 39.1cc

GZ4350EZ
排気量 43.1cc



ハスクバーナ・ゼノア(株) 福島県代理店

(有) うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚 108-1